

地区補助金 地区ホームページ掲載プロジェクト報告書

宇部 RC では、市内にある山口宇部医療センターの「重症心身障害児（者）病棟」での医療やケア活動の実態を知り、支援活動を行うことを決定した。この病棟では、重度の知的・肢体不自由を重複している患児の治療や日常生活の支援活動が行なわれている。そのため、小児科医を始めとし、看護師・理学療法士・栄養士・児童指導員・保育士のチームによる障害児（120名）への診療と療育が行われている。

また、学齢期の患児に対しては山口県立宇部総合支援学校による院内支援学級が設置され、同校より訪問教育が続けられている。

しかし、患児の治療や療育には大変な手数を要するため、同施設で必要とされている小型の回診車とホワイトボードを寄贈することにした。

2014年8月7日同センター講堂において病院側から上岡院長をはじめ5名が、我がクラブから西村会長をはじめ3名がそれぞれ出席し、贈呈式を行った。



西村会長挨拶



目録贈呈



上岡院長より感謝状授与



寄贈品；回診車3台・ホワイトボード2台



記念撮影

**折り畳み式回診車など寄贈**  
宇部RCが宇部医療センターに

宇部ロータリークラブ（西村正彦会長）は7日、国立病院機構・山口宇部医療センター（上岡博院長）に折り畳み式の回診車3台とホワイトボード2枚（約3万円相当）を寄贈した。

3月の例会で上岡院長を単語の講師として招き、同センターの業務を知った。医療、ケアに必要とされる物があれば、地区助成金を活用し、ロータリークラブがサポートする。今回の寄贈は、上岡院長の「この病棟には多くのスタッフを配置しているが、人手が足りない。頂いた物品を有効に使わせてほしい」との言葉をきっかけとした。

この日は西村会長、金子準二幹事、東谷和夫、猪熊啓彦副理事が同センターのきつら病棟（重症心身障害児・者病棟）のデイルームを訪れ、目録を手渡した。西村会長は「一人の役に立つ活動をするのがロータリークラブ。今回の寄贈は、上岡院長の「この病棟には多くのスタッフを配置しているが、人手が足りない。頂いた物品を有効に使わせてほしい」との言葉をきっかけとした。



目録を手渡す西村会長（右、山口宇部医療センターで）

**感謝状**

宇部ロータリークラブ会長  
西村 正彦 殿

貴殿は当院の医療活動に対し温かいご理解の上多数の備品を寄附され当院の円滑な運営に多大なご貢献を賜りました。よってここにそのご厚意に対して深く感謝の意を表します。

平成二十六年八月七日  
国立病院機構  
山口宇部医療センター  
院長 上岡 博